

城北中学校区	校番 63	福山市立明王台小学校
最終更新日		2024年（令和6年）4月10日

I 福山市	ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
-------	--

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けてPDCAサイクルに則り実践する。	児童生徒の現状 全国学力調査の結果、校区小学校は福山市の平均正答率を上回ったが、本校は下回る結果となった。また、長欠未然防止に向けて、現状や対策を話し合い、実践した。さらに、メディアウィークを設定することで、メディアとの付き合い方や利用の仕方について効果があった。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力 他者とかかわる力 社会貢献力 自己形成力 ・自ら考え、判断し、行動できる自律した児童生徒 ・豊かな心を持ち、お互いを尊重し、人を大切にする児童生徒 ・校区合同研修における、合意形成を意識した授業研究及び教科等部会の取組 ・DC教育を基に、ICTを活用した授業実践及び協議・交流の取組 ・家庭での効率的な学習計画の立て方・メディアとの付き合い方への取組 ・合同行事や乗り入れ授業、「総合的な学習の時間」交流会の取組
---	---	---	--

III 自校

ミッション	
夢を持ち その夢を実現することを通して 社会に貢献できる 児童の育成	
学校教育目標	
自ら学び 豊かな心で たくましく生きる子どもの育成	
現 状	
〈児童生徒〉 ・全国学力・学習状況調査、学びの伸びを把握する調査、標準学力調査では、「書く」と「図形」に課題があった。 ・生活についてのきまりを守ろうと努力することはできるが、自分たちの生活をよりよくしようとする意識や学級の課題を解決に向けようとする意欲が低い。 〈授業〉 ・「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表した」児童の割合 50.0%（全国 63.7%）「学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行った」児童割合 68.2%（全国 74.4%）「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」児童の割合（「全国学力」アンケートが、77.3%（全国 81.8%）、どれも平均を下回っている。相手意識をもって表現する場や自分の考えと他者の考えを比較分類し、再考する場を設定する必要がある。	

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	主体的に学ぶ力	思考力	表現力	他者と関わる力
めざす子ども像	生活体験や既習事項を基に、調べたり考えたりするなど、継続して新たな課題を見つけようとしている。	より良い解決に向けて、目的や意図に応じて論理的に考えようとしている。	必要な情報を整理し、論理的に話したり書いたりするなどして、自分の考えを表現しようとしている。	初めて出会う考えにも耳を傾け、目標達成に向けて、共感しながら互いに学び合おうとしている。

研究	テーマ	自分の考えをもち、豊かに表現できる子どもの育成 ～「思考・表現を促す活動」「ふりかえり」を効果的に設定した授業づくり～
	内容等	問題解決型の授業研究の実践を年間を通して行う。（プロジェクト活動型）
めざす授業の姿	○思考・表現を促す活動の充実 ・児童が考えたくなる発問の工夫 ・見方、考え方を働かせる発問の工夫 ○ふりかえりの充実 ・視点を明確にしたふりかえり ・児童の的確な実態把握を生かした授業	

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立明王台小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価
4	自ら考え学 ぶ児童(主体 性)の育成	★	継 続	自分の考えをも ち、豊かに表現で きる児童の育成	・児童が相手意識を もって表現する場 (異学年交流)や自 分の考えと他者の 考えを比較分類し 再考する場の設定 を行うなど、学びを 広げ、深める授業づ くりを進める。 ・児童に視点を明確 にもたせたふりか えりを仕組み、他者 と交流させ、自分の 考えを深める経験 を増やす。	・「自分の考えがう まく伝わるよう工 夫して発表した」こ とができた児童を 80%以上にする (児童アンケート) ・「学級の友達との 間で話し合う活動 を通じて、自分の考 えを深めたり、広げ たりすることがで きた」児童を80% 以上にする(児童ア ンケート)								
		★	継 続	自分たちで考え、 進んで掃除をす ることができる 児童の育成	・縦割りの班掃除を、 年間を通して実施 する。高学年は、手 本を見せたりアド バイスをしたりす る。リーダーは、下 学年のがんばりや 成長を評価する。	・自分で考えてブ ラス1掃除がで きる児童を90% 以上にする。(縦 割りの掃除後の児 童アンケート・教 師の見取り)								
			継 続	自分で考え、主体 的に体力づくり ができる児童の 育成	・年2回、体力向上月 間を設け、自分の目標 に向かって体力向上に 努めるよう促す。 ・体育の授業や朝体育 の時間を使って日常的 に体幹を鍛え、その結 果を評価するものとし て「握力」測定を年4回 実施する。	・「自己目標に向か って進んで体力づ くりに取り組めた」 児童90%以上に する。(児童アンケ ート) ・握力が県平均を超 えた児童を80% 以上にする。								

2	教職員の元 気・笑顔の増 進	★	継 続	「思考・表現を促 す活動」「ふりか えり」を効果的に 設定した授業づ くりに向けた研 究・実践の充実	・プロジェクト型 の授業改善を進 める。(T3会議を 月2回)	・授業改善につな がる授業研究が みんなで協力し てできていると 感じる教師の肯 定の評価 85%以 上にする。										
4	地域を笑顔 にする学校		新 規	地域の人やボラ ンティアの人に 感謝の気持ちをも って行動するこ とができる児童 の育成	・児童会を中心に、 年間を通してあ いさつ運動を実 施する。 ・地域の人やボラ ンティアの人と 連携をしながら 学習を進める。	・保護者・児童・登 下校ボランティア のアンケートで「地 域の人やボラン ティアの人にあいさ つができる」児童を 80%以上にする。 ・生活科・総合的な 学習を中心に地域 連携をカリキュラ ム上に位置付け、年 に2回以上連携す る。										

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。